

●未来を切り開く動物実験代替法  
動物実験を用いた手法は、生

命が犠牲となってきたことも事実です。そこで、1999年に開催された第3回国際動物実験



日本動物実験代替法学会  
理事・企画委員長、(株)エビア神戸研究所所長  
奥村 秀信

製品などの安全性や有効性評価に大きな貢献をしてきました。しかしその反面、膨大な動物の命が犠牲となってきたことも事実です。そこで、1999年に開催された第3回国際動物実験代替法会議にて動物福祉を念頭に置いた実験方法を推進していく3Rの概念(動物数の削減・Reduction、動物の苦痛軽減・Refinement、および動物を使用しない試験法への置き換え・Replacement)が国際ルールとして採択されました(ポロニア宣言)。

人々の豊かな暮らしにつながる

## 動物実験代替法の展開

る医学、科学技術、生活の発展 需要拡大  
を得るために安心・安全を担保 産業界においては、EU市場  
するためのエビデンス(証拠) に流通している約3万の化学物

### ⑦動物実験代替法の普及のために

験実施した原料・製品の販売禁止(09年3月実施)さらには医療用具の安全性評価のためにISO(国際標準)などが検討されていきます。いずれにおいても、動物実験代替法を促進しなければ、携の動物実験代替法の開発・活

# 省庁越えた産学官連携を

は今後必要です。そして、その製造・輸入を行うにはならない国際的な状況が津波の手法として動物福祉を念頭に置いた実験方法、つまり、動物実験代替法の開発・活用が重要

な鍵を握っています。

●動物実験代替法の国際的な

製品の動物実験禁止や動物実

は今後必要です。そして、その製造・輸入を行うにはならない国際的な状況が津波の手法として動物福祉を念頭に置いた実験方法、つまり、動物実験代替法の開発・活用が重要な鍵を握っています。動物実験代替法の国際的な製品の動物実験禁止や動物実

＝連載おわり＝